

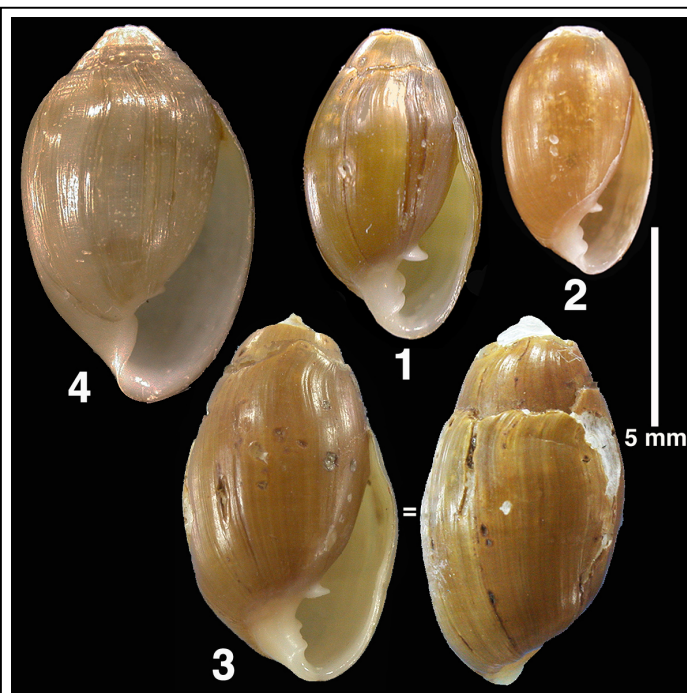
ナラビオカミミガイ *Auriculastra duplicata* (L. Pfeiffer)

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地内に生息する。県内ではヨシ原湿地が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村, 1999)。特に本種の個体数は少なく、県内で最もヨシ原湿地の環境が保全されている汐川干潟でも1998年以来生息が確認されていない。その後健全な個体群が1ヶ所で発見されたが、県内で生息が確認されているのは、現在個体群が消滅状態の汐川干潟を含めて3ヶ所に過ぎない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻長約8mmの小型種。殻は卵形で殻表は黄色、平滑で光沢が強い。オカミミガイの幼貝(図4)と近似するが、本種の縫合下にはオカミミガイに認められる顆粒列がなく、殻表は成長脈だけで平滑であるので区別できる(木村, 2012a)。汐川干潟の個体(図3)は、他の生息地の個体(県内だけでなく、日本各地に生息する個体)と比較して大型で、殻が太い(木村, 2012a)。



1, 2: 西尾市矢作川河口, 2009年7月15日, 3: 豊橋市汐川干潟, 1988年5月1日, 4: オカミミガイ(幼貝), 西尾市矢作川河口, 2009年7月15日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

木村・木村(1999)では汐川干潟1カ所のみで記録されたが、1998年以来生息を確認していない。2001年の調査で矢作川河口域に1カ所新たに生息地を確認し、その後の継続調査で健全な個体群の存在が確認された(木村, 2012b)。また、名古屋市庄内川河口の非常に狭い範囲で少数個体が確認された(早瀬・他, 2014)。

【世界及び国内の分布】

日本と中国南部。国内では三河湾、伊勢湾、英虞湾(河辺, 2000)、五ヶ所湾(木村, 2008) 瀬戸内海、有明海、沖縄本島(沖縄型として区別される場合もある; 福田・他, 2012)に分布する。

【生息地の環境/生態的特性】

上述したようなヨシ原湿地内の朽ち木や落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。

【現在の生息状況/減少の要因】

上述したようなヨシ原湿地と上部の陸上植生が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。生息地が残されていても個体数が著しく減少している原因については不明である。

【保全上の留意点】

上述したようなヨシ原湿地と上部の陸上植生を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質を保全する必要がある。

【特記事項】

県内は本種の分布の東限である(木村, 2012a)。

【引用文献】

- 福田 宏・久保弘文・木村昭一, 2012. ナラビオカミミガイ沖縄型, p. 92. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 早瀬善正・川瀬基弘・木村昭一, 2014. 庄内川河口で確認された名古屋市新記録を含む滅危惧貝類 5 種. かきつばた, (39): 31-36.
- 河辺訓受, 2000. 志摩地方採集・観察調査会報告. かきつばた, (26): 21-24. 名古屋貝類談話会.
- 木村昭一, 2008. 五ヶ所湾観察・調査報告. かきつばた, (33): 51-54. 名古屋貝類談話会.
- 木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.
- 木村昭一, 2012a. ナラビオカミミガイ, p. 92. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 木村昭一, 2012b. 矢作川ヨシ原塩性湿地の貝類相. 三河生物, (3): 1-8, 2pls.

(木村昭一)